

花の道の部

総 評

審査は7月27日～28日に行いました。10か所の花の道は、地域条件：海沿いの砂地、田園、山里、商業・文教・住宅地、栽培規模：延長100m～400m、構成員：2人～地区総出— など、さまざまで、そして、なによりどの花の道も「花にも、お世話している方々からも、元気をいただける」花園でした。

皆さんの花の知識の豊富さ、コンテナならではの竹や睡蓮を配置した自由なデザイン、子供たちとの楽しそうなコラボレーション、花活動の地域内でのしっかりした根付き——などに感心しました。また、「高齢化ではなく、超高齢化の中で活動を続けて行けるようにしてゆきたい」との思い・努力もお聞きし、「私、まだまだ、楽しんでやるが・・・」と説明いただいた85歳のグリーンキーパーさんに力をもらい、「花を愛してお世話され、花にも愛されているから、こんな素晴らしい花の道になるんだなあ」と痛感しました。

これからも、①自分らのために自らの楽しみとして花に関わっていただきたい、②地域総出で花苗を植えられている様相や広い広い花壇背後の傾斜地を草刈りしておられる姿、花壇で育った仏花をお供えされているお墓参りの方など、人の営みが浮かび、花と人の魅力がいっぱいのとやまの花の道をまた訪れたいと切に思いました。

最優秀賞評

小矢部市の『野ぎくの会』が最優秀賞を受賞しました。当地はおやベクロスランドタワー前に位置し、延長400m、広さ730㎡の県内でも最大規模の花の道です。

春の約12,000球のチューリップの萌芽に始まり、桜、夏花壇、秋花壇と、年間を通して花に親しめるようにと、会員の皆さん(37人)が自由な雰囲気をお世話されています。

「今年は、コリウスが小ぶりで物足りない、立ち枯れも目立つ、マルチング資材を桜チップに変更したがいまいち」との自己評価でしたが、土壌改良資材のしっかりとした施用、大きなヒマワリを配置してのリズム感の醸成、シロタエギクによるクロスデザインなど、花に関わる豊富な知識・経験に裏打ちされた栽培技術やデザイン力、そして会員内でのしっかりした役割分担(耕起・畝たて・造成、植栽・デザイン、除草、水やりなど)により、魅力あふれる花の道を創出されていました。今では県内外からたくさんの来訪者があるとのことですが、花の道を訪れるついでにタワーやアウトレットに寄る方も、多いのではないのでしょうか・・・

これからも、一年一年、試行錯誤、創意工夫をしながら、皆さんでガヤガヤ楽しみつつ、花にふれ合う喜び・楽しさを地域内外の来訪者にお裾分けいただけるものと思いました。

(審査委員長 石黒 哲也)